

須賀川に暮らす子育て世代と高齢者の豊かな暮らしのために

こども医療費助成制度により 医療費無料化を小学6年生まで拡大



牡丹園内で市民団体などの各種イベントを開催 (5月16日のお笑いライブ)

S U K A G A W A

2009

須

賀川市では、これまでに子育て支援の環境として、県の補助制度である「乳幼児医療費助成制度」を活用しながら、乳幼児医療費の無料化を推進し、平成13年からは、小学校就学前までの子どもの医療費を無料にしてきました。しかし、少子化は年々進行しており、更なる子育て支援策の強化を図る必要があるため、平成21年10月から、市の単独の財源によって、新たに「こども医療費助成制度」を設け、無料化の対象年齢を拡大し、小学校6年生までの子どもの医療費の無料化を実現しました。

歯止めが掛かるとともに、将来の地域社会を担っていく子どもが増えていくことによって、高齢社会対策にもつながるものと期待されています。子ども医療費無料化の拡大は、本市に暮らす若い世代が、少しでも安心して子どもを産み育てることができ、環境を整えるとともに、高齢者もまた安心して暮らしていける地域社会を築いていくことを目指すものです。



子育て世代に優しい医療費無料化の拡大 (4月6日、長沼小学校に入学した新1年生)



大相撲須賀川場所 (8月7日)



交通安全鼓笛パレード (5月26日)



松明あかし前夜に開催の「八幡山えん義」 (11月13日)

地域医療を語る会が 西袋公民館から始まる

7月29日、第一回地域医療を語る会が、西袋公民館で開催されました。この取り組みは、10月1日に始まる小学6年生までの医療費無料化で危惧されていた「コンビニ受診」を事前に防ぐためのものです。緊急性の低い軽症の患者が時間外に受診する、いわゆる「コンビニ受診」の増加は、医師の疲弊を増長することはもちろん、重症救急患者への対応にも重大な影響を及ぼしかねない問題です。



地域医療を語る会 (7月29日)



市乗合タクシー出発式 (2月2日)

乗合タクシーの 運行スタート

2月2日から地域を限定して乗合タクシーの運行が開始されました。乗合タクシーは、通院や買い物に出掛ける際、バスなどの公共交通機関の利用が不便な地域を対象に運行するものです。一般のタクシーとの大きな違いは、複数の利用者による乗合方式であること。利用者が時刻表に合わせて事前に予約すれば、自宅そばから目的地まで送迎サービスが受けられます。利用料金は片道500円。この新たな公共交通手段を継続していくためには、乗り合いで効率的に運行することが重要なため、「友人知人、隣近所を誘い合わせ、上手に利用しましょう」と呼び掛けられました。



福島空港の国際線就航10周年 (6月27日)



歌舞伎俳優の中村吉右衛門さんが記念植樹 (7月9日)



新しい第三小学校校舎に引っ越し (12月22日)

- ◎2月 乗合タクシーの出発式が、まちなかフラゲで行われる。定額給付金対策室を開設
- ◎4月 更生保護活動サポートセンターが総合福祉センター内に開設。須賀川・岩瀬地方緑化推進委員会合同植樹祭を藤沼湖自然公園で開催
- ◎5月 すがわ国際短編映画祭でアカデミー賞短編アニメ部門受賞監督の加藤久仁生氏を特別ゲストに迎える
- ◎7月 松竹大歌舞伎で来須した歌舞伎俳優中村吉右衛門さんが牡丹園内で牡丹を記念植樹。須賀川医師会との共同開催による「地域医療を語る会」が西袋公民館から始まる
- ◎8月 大相撲須賀川場所が須賀川アリーナで開催
- ◎10月 こども医療費助成制度を創設し、こども医療費無料化の対象を小学6年生まで拡大。「須賀川の観光と物産展」を東京の福島県八重洲観光交流館で開催
- ◎12月 第三小学校校舎改築完成

防災機能や環境に優しい配慮が取り入れられた交流空間

市民と行政の協働活動で整備した 地域住民の憩いの場「結の辻」開所



円谷幸吉選手生誕70周年記念の
第28回円谷幸吉メモリアルマラソン

SUKAGAWA 2010

松

明通りに面した場所に、地域住民や観光に訪れた人々の憩いの場所として「結の辻」が整備されました。開所式は平成22年7月10日に行われ、開所式の後には、地元の関係者で組織する「風流のまち創出プロジェクト」が主催する昔あそびなどのイベントが行われ、子どもたちを始め多くの市民が訪れました。

この広場は、「県道須賀川・二本松線街路整備事業」と同時に進められている「須賀川南部地区都市再生整備事業」によって整備されたもので、「結の辻」という名称は、供用開始に先立って公募されたものの中から選ばれたものです。あずま屋にある固定式のベ

ンチは、天板を外すとかまどになり、広場で行われるイベントで使用されるほか、災害時の炊き出しに活用できるものです。そのほか、災害時にも水洗トイレが使用できる仕組みなど、防災機能を備えた広場としても注目されました。また、トイレの電気はあずま屋の屋根に設置されたソーラーパネルの電力で賄い、あずま屋やトイレの屋根には須賀川産の赤瓦を再利用するなど景観と環境への配慮が随所に取り入れられています。



「結の辻」は新しい憩いの場



消防操法大会（6月27日）



牡丹大使の落語家桂幸丸さんなどが彩りを添えた園遊会（5月6日・須賀川牡丹園）

組織機構改革による 新たな組織体制がスタート

市民サービスの一層の充実を目指して、新年度となる4月1日、市の組織機構が改編され、新たな組織体制がスタートしました。組織機構改革の基本方針は次の4点です。

- ①市政をより効率的に推進する組織体制
- ②類似事務事業の統合による組織の簡素・合理化
- ③分かりやすく利便性の高い組織
- ④新たな行政課題などに対応した組織体制の充実

この改革により、1課3係減となりました。部・課の名称についても、業務の実態に合わせて、市民に分かりやすい名称に変わりました。

少子高齢化や人口減少社会の到来など時代の変化に対応し、より無駄のない分かりやすい行政組織が整備されています。

全小学校区に 児童クラブの設置が完了

大森小学校に児童クラブが開館し、10月1日の開館式には、地域関係者が参加して児童クラブの開館を祝いました。



大森小児童クラブ開館式

テープカットに続き、橋本市長のあいさつ、参加者全員による記念撮影などが行われ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

児童クラブは、就労などで昼間保護者がいない家庭の小学校1年生から3年生までの児童を対象に放課後の「生活」の場を提供し、「遊び」や「生活」を通して子どもたちの健全育成を図ることを目的とする事業です。

今回の児童クラブ開館により、市内の16小学校学区に児童クラブの設置が完了しました。



養老孟司ムシテックワールド館長が牡丹園に植樹
（10月23日）



岩瀬地域の市敬老会（9月18日）



暴力団等排除措置要綱運用協定を締結（7月1日）

- Chronicle of 2010
- ◎1月 学校給食米粉パンの試食会が仁井田小学校で開かれ、橋本市長も出席して児童たちと一緒に米粉パンの給食を試食
 - ◎4月 市の組織機構改革を行い、新たな組織体制がスタート
 - ◎5月 すががわ国際短編映画祭でゲストに迎えた中島清文三鷹の森ジブリ美術館長が短編映画への思いを語る
 - ◎6月 消防操法大会が市民スポーツ広場で行われ、ポンプ車の部で第12分団今泉班、小型ポンプの部で第6分団上江持班がそれぞれ優勝
 - ◎7月 「市の締結する契約書等に係る暴力団等排除措置要綱運用協定」を締結
市民と行政との協働活動で整備した地域住民の憩いの場「結の辻」が本町に開所
「大規模災害時における一般廃棄物の収集運搬の協力に関する協定」を締結
東部地区を中心とした降ひょうと突風による農作物の被害に対応するため、「農作物異常気象災害対策本部」を設置
 - ◎9月 文化講演会が文化センターで行われ、三遊亭円楽師匠がユーモアを交えたトークを披露
円谷幸吉生誕70周年記念第28回円谷幸吉メモリアルマラソン大会が行われる
 - ◎10月 大森小児童クラブ開館により全小学校学区に児童クラブの設置が完了

震災発生直後から24時間体制で応急支援・復旧に全力を尽くす

須賀川を襲った東日本大震災、復旧そして復興に向かって



被災した市役所庁舎（2階）

S U K A G A W A

2011

平

成23年3月11日に発生した東日本大震災。須賀川市では震度6強を観測しました。この震災で市庁舎が大きな被害を受け使用不能となる中、市では地震発生直後から24時間体制で被害調査、避難所の開設、市民からの相談対応、ライフラインの復旧などに全力で取り組みました。

市内各地で建物や道路が大きな被害に見舞われましたが、中でも長沼地域にある藤沼湖は、堰堤が決壊し下流の家屋が流失しました。これにより7人の尊い命が奪われ、1人が行方不明になるといいます。本市始まって以来最悪の被害となりました。最終的に震災による死者の数は市全体で11人（平成26年



第一小学校の校庭崩落

2月27日現在）となり、市内全域の家屋の被害は全壊1249戸、大規模半壊418戸、半壊3085戸、一部損壊10570戸で合計15322戸にのびりました。また、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による対応にも迫られ、放射線スクリーニ

ングや飲料水のモニタリングなどを行うとともに、市民への正確な情報提供にも努めました。

震災当日、市内20か所の避難所が開設され、給水や炊き出しなど避難者に対する支援が早急に開始され、復旧活動も迅速に行われました。応急支援が必要な時期が過ぎてからは、中期の復興計画を策定し、震災からの復旧・復興、更なる市勢発展に向けて全力で取り組んでいます。



東日本大震災で被災した藤沼湖



松塚地内の市道崩落

新たなコースも加わり便利になった循環バス

東日本大震災では市庁舎などが被災し、各行政機能が市内各所に分散。5月に運行を開始した循環バスは、市内に分散した市役所各部署への交通手段として多くの市民に活用されています。

翌年1月には循環バス運行開始当初からのコースに加え、その逆まわりのコースとなる「市内循環市民温泉先回り」コースも運行をスタート。循環バスは、平成21年度に市が

策定した公共交通マスタープランである市総合交通ビジョンの一環として、整備されたものですが、市民ニーズを反映し充実が図られています。

台風15号、須賀川に甚大な被害を及ぼす

9月21日、日本列島を縦断した台風15号は記録的な豪雨で本市に大きな被害をもたらしました。釈迦堂川や阿武隈川では、いずれも過去最高の水位を記録。

台風当日、市や消防団を始めとする各防災関係機関は河川の氾濫に備えるとともに、市内各地で発生した住宅や事務所などの浸水の対応に当たりました。また、道路や農地の冠水、さらには土砂崩れも発生し、関係機関と連携をとりながらの総力戦となりましたが、幸い人命に関わる被害はありませんでした。



県立須賀川高校が夏の高校野球福島大会準優勝（7月28日）



毘沙門尊天初寅大祭（2月3日）



882人が大人の仲間入りをした市成人式（1月9日）



台風15号の影響で増水した釈迦堂川



従来より半年遅く開催された交通安全鼓笛パレード（10月26日）



すかがわ産物フェスティバル（10月22、23日）



歌手の長瀬剛さんから市民へのメッセージを手渡す悦子夫人（4月7日）

◎12月	◎11月	◎9月	◎8月	◎7月	◎6月	◎5月	◎4月	◎3月	◎2月	◎1月
震災復興計画を策定	神奈川県座間市と災害における相互応援に関する協定を締結	台風15号の影響で釈迦堂川、阿武隈川とも過去最高の水位を記録。住宅や事業所の浸水や土砂災害など、本市に甚大な被害をもたらす	須賀川サポーターズクラブが発足	第93回全国高校野球福島大会決勝で、県立須賀川高校が聖光学院と対戦し、準優勝の大健闘	須賀川サポーターズクラブが発足	市民の被害に對する総合相談窓口を開設	市体育館内に、震災の被害に對する総合相談窓口を開設	11日、午後2時46分、太平洋三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震（東日本大震災）が発生。本市では震度6強を観測し、甚大な被害をもたらす。長沼地域の藤沼湖の堰堤が決壊して大規模な水害も発生。余震による被害も含め、これらの災害により、市内全域で10人が死亡、1人が行方不明となる（最終的に平成26年2月27日、死者11人となった）	長沼支所2階にふるさとの民具展示室がオープン	住民票の写し、印鑑登録証明書のコンビニ交付サービス開始

子どもたちの心と体を育む遊びの数々が大好評

屋内子ども遊び場「すかがわキッズパーク」



長沼・岩瀬地域の敬老会（9月17日）

S U K A G A W A

2012

東

日本大震災により発生した原発事故の影響で、子どもたちを外で遊ばせることに不安を抱えているお母さんたちの声に応える待望の施設が誕生しました。その名も「すかがわキッズパーク+PLAY」。7月27日、茶畑町の労働福祉会館で1階にオープンしたこの屋内子ども遊び場は、子どもたちに遊んでもらう場所を提供するとともに、お母さんやお父さんたちの不安を少しでも解消したいという思いから設置されたものです。



歌手の水前寺清子さんがNHK番組の取材でキッズパークを訪問

平方メートルのスペースに、大型遊具やボールプール、落書きの森、マグネットツリーなど、子どもたちの心と体をたくましく育む遊びの数々が用意され、自由な発想で遊ぶことができます。また、読み聞かせスペースもあり、親子でゆっくりと絵本を読むなど

して過ごすこともできます。放射線への不安もなく、たっぷり遊ぶことができます。オープン以来、連日多くの子どもたちが訪れています。また暑い季節は涼しく、寒い季節は暖かく遊べると大好評。子どもたちが楽しく遊べる場としてだけでなく、子どもを連れてきたお母さんたちの交流の場としても活用されています。



ちびっ子たちでにぎわうキッズパーク



消防団の出初式（1月4日）



嘱託員委嘱状交付式（4月7日）



大東小学校新校舎で（12月21日）

東日本大震災「犠牲者追悼式」開催

平成23年3月11日に発生した東日本大震災。この震災により甚大な被害を受けた本市の死者・行方不明者は11人に及びました（最終的に平成26年2月27日、死者11人となりました）。震災から1年を迎えた平成24年3月11日、文化センターにおいて犠牲者追悼式を挙行し、犠牲者をしのび哀悼の誠を捧げました。当日は市民や来賓約200人が参列し、黙とうを行い亡くなられた方々のご冥福を祈りました。参列者は、この大災害を強く心に刻み、後世に伝えていくとともに、一日も早く震災からの復興を成し遂げ、私たちの故郷「須賀川」のすばらしさを取り戻すことを改めて誓い合いました。

文化センターで行われた追悼式



2日目には分科会、エクスカージョン（野外調査）を実施。菜の花プロジェクトを始めとする地球環境に配慮した地域資源循環型まちづくりの取り組みなどについての発表が行われました。



約600人が集った全国菜の花サミット in ふくしま

「第12回全国菜の花サミット in ふくしま」華々しく開催

4月28・29日、文化センターを主会場に「第12回全国菜の花サミット in ふくしま」が開催されました。第一小学校の児童による合唱で幕を開けた菜の花サミットは、「バイオマスエネルギー村の取り組み」についての基調講演、「菜の花の栽培技術」、本市が取り組む「菜の花プロジェクト」など、各ゲストからの発表に約600人の参加者が耳を傾けていました。



2期目の当選を果たし初登庁する橋本市長（8月13日）



多くの来場者でにぎわった「いわせ悠久まつり」（10月21日）

Chronicle of 2012

- ◎1月 長沼地区循環バスの運行開始
- ◎2月 北海道長沼町と災害時における相互応援に関する協定締結 大阪府豊中市と「空港で結ぶ友好都市提携に関する協定」を締結
- ◎3月 東日本大震災の発生から1年、犠牲者の冥福を祈り、東日本大震災犠牲者追悼式を挙行 大震災で発生した藤沼湖決壊による被災地復興に関する覚書の調印式が行われる
- ◎4月 本町にある「結の辻」の管理協定調印式 市内外から約600人が参加し「第12回全国菜の花サミット in ふくしま」が開かれる
- ◎5月 奥地産産物と須賀川テクニカルリサーチガーデン立地協定・土地売買契約調印 市体育館内に設置していた「総合相談窓口」を閉鎖。行政機能を市役所仮設庁舎などに移す 新庁舎建設基本計画を策定
- ◎7月 第1回まちづくり市民懇談会が行われる 須賀川市長選挙で橋本克也氏が無投票で当選（2期目）
- ◎6月 市内子ども遊び場「すかがわキッズパーク+PLAY」が、労働福祉会館内にオープン
- ◎9月 市が所有する垂欧堂田善作品が国の重要文化財に指定される
- ◎10月 東循環バスと稲田エリア乗合タクシーの運行を開始 須賀川復興第1回菓子まつりが市体育館で開催
- ◎12月 須賀川市第7次総合計画「須賀川市まちづくりビジョン2013」を策定

ウルトラヒーローとともに須賀川の魅力を全国に発信

須賀川市とM78星雲「光の国」が 姉妹都市を提携



福島空港開港20周年で
ウルトラマン空港フェスタを開催
(3月20日)

SUKAGAWA 2013

平成25年5月5日、須賀川市はウルトラマンの故郷であるM78星雲「光の国」と姉妹都市の提携を行いました。

本市は特撮テレビ番組「ウルトラマン」を世に送り出した円谷プロダクションの創設者・円谷英二監督の出身地です。この年は円谷プロダクション創立50周年の記念の年に当たり、翌26年は本市が市制施行60周年を迎えるなど、双方にとって記念となる年が続きます。このことが契機となって姉妹都市提携の企画が実現しました。

姉妹都市提携に併せてインターネット上で「すかがわ市M78光の町」を開設。町長には宇宙警備隊大隊長のウルトラの父が就任するなど遊び



JR須賀川駅前広場のウルトラマンモニュメント (7月7日)

心も満載です。この「すかがわ市M78光の町」のサイトでは、7月19日から仮想都市への住民登録サービスがスタート。サイトで住民登録が完了すると、光の町の住所と住民番号が割り振られます。また割り振られた住民番号を須賀川観光協会や本市コミュニティ

イプラザなどに提示すると有料で住民票が発行されます。

本市では、この姉妹都市提携をスタートに、ウルトラヒーローたちとの様々な取り組みにより、須賀川の魅力を全国に発信し、多くの人たちとの交流を図っています。須賀川の明るい未来の創造のため、光の国との姉妹都市提携の効果が期待が高まっています。



須賀川市×M78星雲「光の国」姉妹都市提携式 (5月5日)



市立博物館で特別展「特撮ヒーロー飛翔展
—TSUBURAYA 50AGE—」を開催 (7月19日)



駅迎堂川ふれあいロードでボランティア植花事業
(6月15日)



きょうり天王祭 (7月14日)



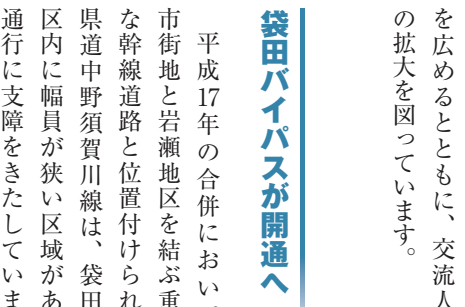
座間市と友好交流都市協定を締結 (11月10日)

神奈川県座間市と 友好交流都市協定を締結

11月10日、本市は神奈川県座間市と友好交流都市協定を締結しました。

本市と座間市は、平成19年度に座間市内友好都市検討委員会が本市を友好都市候補地に選定したことを受け、交流を深めてきました。

特に東日本大震災以降、本市の復興の取り組みに当たり、座間市から災害復旧の技術職員の派遣をはじめ、物心両面にわたる支援を受け、平成23年11月には「災害時における相互応援協定」を締結。さらに、原発事故に伴う風評被害で大きな影響を受けている農作物や特産品の販売においても座間市の各種イベントなどで協力をいただいています。



袋田バイパスが開通へ

本市では、友好交流都市協定締結を契機に、座間市との交流をさらに深め、交流の輪を広げるとともに、交流人口の拡大を図っています。

袋田バイパスが開通へ

平成17年の合併において、市街地と岩瀬地区を結ぶ重要な幹線道路と位置付けられた県道中野須賀川線は、袋田地区内に幅員が狭い区域があり通行に支障をきたしていました。これを解消するため、県の事業により平成22年度から進められていたバイパス(延長1.1km)工事が完了し、7月31日に開通しました。



主要地方道中野須賀川線袋田工区 (袋田バイパス) が開通 (7月31日)



オリンピックデー・フェスタ in 須賀川 (11月30日)



赤十字すまいるばーくをオープン (9月2日)



第31回円谷メモリアルマラソン大会 (10月20日)

- ◎1月 第一種市街地再開発事業基本協定締結調印式
- ◎3月 東日本大震災の発生から2年、犠牲者の冥福を祈り、長沼地域で東日本大震災犠牲者追悼式被災した市庁舎と第一小学校校舎の解体工事が完了
福島空港が開港20周年を迎え、記念式典とウルトラマン空港フェスタを開催
市復興まちづくり事業計画を策定
- ◎5月 須賀川牡丹園で、須賀川市×M78星雲「光の国」が姉妹都市提携式を開催
本市消防団が第7回東北水防技術競技大会で優秀賞を獲得
- ◎6月 釈迦堂川ふれあいロードでボランティア植花事業
- ◎7月 JR須賀川駅前須賀川市×M78星雲「光の国」姉妹都市提携記念モニュメントを新設
仮想都市「すかがわ市M78光の町」住民登録と住民票の発行を開始
主要地方道中野須賀川線袋田工区(袋田バイパス)が開通
- ◎8月 環境管理研究所と須賀川テクノカルチャーセンター立地協定・リース契約調印
第1回子ども・子育て会議を開催
- ◎9月 赤十字すまいるばーくをオープン
館ヶ岡の里橋が完成
被災した総合福祉センターの解体工事が完了
- ◎10月 証明書コンビニ交付サービスの証明種類の拡大(税証明書・戸籍証明書)
ワイエスエレクトロニクス(株)と須賀川テクノカルチャーセンター立地協定・土地売買契約調印
- ◎11月 本市と神奈川県座間市が友好交流都市協定を締結



©円谷プロ